

蹈へ被爲在候筋ニハ無之候、然バ此度ハ全ク御開業ノ御手始ノ爲故ノ義ト被奉存、專文武御奉公ノ心掛可爲肝要候、

二月十四日略○中

修業獎勵法 藩士ノ内從來家計困窮ノ爲メ、心志ヲ勞シ文武ノ本業ヲ專ニシ能ハザルモノ不
少ヲ以テ、文政二年己卯建學五月一日、如左年賦返納金、或ハ一時下行金等ヲ貸給シ、弘化四年丁
未七月三日、再ビ下行金ヲ給與シ、家計ノ困窮ヲ救助シ、文武ノ修業ヲ獎勵ス、

文政二年己卯五月一日救助 知行百石、扶持高二十人扶持、切米百俵、金給三拾三兩ニ付、金拾五
兩ノ割ヲ以テ、祿高ニ應ジ、無利息二十ヶ年賦貸渡、勝手向差支無之、借用ニ不及者ヘハ、祿高同上、
五兩ノ割ヲ以テ、一時下行、右兩條共相斷候者ハ、後日ニ至リ無據入用有之節ハ、借用出願ヲ許ス
一代限ノ者ハ、祿高同上五兩ノ割ヲ以テ、一時下行、部屋住勤ノ者ヘハ、祿高同上三兩ノ割ヲ以テ
一時下行、親知行ノ内ヲ以テ相勤候者ヘハ、貸渡下行トモ無之、

弘化四年丁未七月一日救助一時下行 知行百石ニ付、金三兩ノ割、扶持方二十人扶持、切米取百
俵ノ者ハ、知行百石ノ割、金給取拾兩ハ、切米三拾俵ノ割、五人扶持取廿五俵取ハ、金八兩、右以下金
三分、部屋住勤ノ者、一代限ノ者、太夫役者ハ、下行無之、知行減少高ニテ相勤候者ハ、本高ヲ給ス、

〔日本教育史資料二〕

舊豐橋藩學制

此度學寮御取立之儀は、○文化三年 武士たる者、武術相嗜候儀は、建時習館

勿論之事に候、乍去文學出來致し、治亂何様之御役被仰付候共、自然取計方行届當人に於ても、當

惑不致候様にとの難有御趣意に候間、御家中若年之者共、致入寮出精可致候、文學は固より道理
に明らか、古今に通じ、治亂之勤方、悉く此中に有之候事にて、決して文弱之士風に可被遊との
御趣意には無之候間、右之處能々相辨へ、御趣意に不戻様出精可致候、親に於ても、心得違無之、子
供へ篤と教訓致し、出精可爲致候、依之以來は、百石以上、當年十五歳以下之者、若し學問未熟、當時